

地域活性化 おこっぺ街中マルシェで



仲元寺 恒平 (ちゅうげんじ こうへい)
おこっぺ町づくり研究会会長

1979年生まれ。兵庫県神戸市で育ち、阪神淡路大震災を体験する。98年酪農業への憧れから帯広畜産大学へ進学。2002年同大学畜産環境科学科を卒業し、興部町農業協同組合(現北オホーツク農業協同組合)に勤める。10年興部町で行われた北オホーツク農商工連携人材育成事業に参加し、様々な方と意見を交換する機会に巡り合い、興部町の地域活性化について考えるようになる。11年おこっぺ町づくり研究会の発足に関与、12年おこっぺ町づくり研究会の会長に就任。

自分たちの体験を町全体へ

紋別郡興部町におこっぺ町づくり研究会なるものがあります。この研究会は、業種の壁を越えて様々な町内の人々が在籍しており、それぞれの立場から興部町の豊かな未来を模索するために集まった興部町民の自主的な町づくりを考える集まりです。

研究会の中で興部町に対する意見や考えを交わすうちに、研究会という小さな範囲の中でも初めての人との出会いや交流が自分たちの物事の考え方や知識を豊かにすることに気付きました。同時に、新しい考えや発見を知ることを楽しさを感じました。そして、それは私たちが考える興部町の未来に不可欠なことであると思うようになりました。

私たちが体験したような人との出会い、交流を町民同士が気軽にでき、興部町の活性化につながるようなことはできないだろうか。そうした思いから興部町商店街を舞台とした「おこっぺ街中マルシェ」の開催を企画しました。

スタンプラリーで町民同士の交流を!

おこっぺ街中マルシェの中で、人との出会い、交流をつくる仕掛けとして「ふれあいスタンプラリー」を企画しました。商店街の各店を回ってスタンプを集め、一定以上のスタンプ数で抽選に参加できます。抽選の景品は、商店街の各お店の商品を用意しました。特別なルールもなく単純なゲームですが、これには私たちの計画がありました。

一つ目は、人との出会い、交流をつくり出すことです。このスタンプラリーでは、スタンプをお店の方に必ず押してもらうようにしました。そうすることで、お店の方とスタンプをもらう参加者がやり取りをする機会ができ、それがもっと深い人と人の交流をつくるきっかけとなる可能性があると考えました。

スタンプラリー開始直後は、お店の方も参加者もよそよそしく挨拶ぐらいのやり取りでしたが、しばらくしてスタンプラリーに慣れてくると挨拶だけではなく、少しずつ会話を交わしている光景を見ることがで

きました。わずか数時間の間に参加者との会話を楽しみ、お互いに積極的に声をかけるまでになったのです。時代の流れなのか、日々の生活の中で人と声を掛け合うような機会が少なくなってきたことが地域や商店街に閉塞感^{へいそく}が表れる要因のようにも思いますが、少しのきっかけがあれば街中で声をかけ合う場面が創り出せるのだと期待が持てました。

二つ目は、興部町商店街のお店を知ってもらうことです。長年町内に住んでいる方でも、商店街のすべてのお店に出入りしたことがある人は多くないことが事前の聞き取りで分かりました。特に子供たちは、ほとんどのお店に入ったことがなく、どんなお店があるのかさえも知らない状況でした。

今回のスタンプラリーを通して、それぞれのお店はどのような方が経営されていて、どのような商品が並び、店内の雰囲気はどうかかなど、見て感じてもらえたと思います。子供たちはもちろん、大人の方も初めてのお店では新しい発見や体験をしたに違いありません。自分の住んでいる町のことを少しでも知ることができたはずですし、こんな小さな町でもまだまだ新しい発見や体験があることに気付いてもらえたことでしょう。

空き店舗と空き地の空間を活用しよう

興部町の商店街を見渡せば目に入る空き店舗や空き地、経営者の高齢化や後継者不足などの事情により閉められたところがほとんどです。おこっぺ街中マルシェでは、これらの空き地や空き店舗を利用し、かつてのような活気があり人の行き交う、商売だけではない人と人の交流の場と賑わいの場をつくり出そうと試みました。

そのため、まずは町内でこれらの空間を使って販売や展示などをする方がいないか聞き込みを行いました。すると、カービングや手芸品、木のおもちゃなど、様々な活動をしている方の協力が得られました。

また、一般社団法人オホーツクテロワールの協力を得ながら町外の方も招き、興部町にはない特産品の販売、科学実験教室なども行っていただきました。当初は町外の方を招くことに否定的な意見もありましたが、町外の方々を招くことで更に企画の幅が広がりました。町民の方々にも新鮮な体験をしてもらえたのではないのでしょうか。

地域活性化の可能性は、もちろんその地域にありますが、他の地域の手を借りることも有効であるように思います。

今を変えよう

おこっぺ街中マルシェを進めていく中で、ただ興部町を良くしたいという思いだけでは解決できない物事の多さを知ることとなりました。しかし、これも誰が悪いのではなく、普段からの話し合いや、交流が不足している町の現状が発端なのかもしれません。

興部町は小さなコミュニティだからこそ、その強みを生かして強い結束力や親密さを作ることが大切だと思います。そのために、年齢、性別問わず、みんなが集まれて交流し、意見を交換できる場をつくり、それに積極的に参加できるような仕掛けや雰囲気をつくっていくことが必要だと感じました。当研究会もその一助となるように活動を続けていきたいと思っています。

現状を嘆くのではなく、今を変えようという前向きな姿勢でこれからも取り組んでいきます。



スタンプラリーでは店主と参加者の間に自然と交流が…



空き店舗を利用してマルシェを盛り上げてもらいました